

経営戦略1
まちに人・モノ・外貨を呼び込む

■関係人口の拡大
地方に関心のある首都圏住民から、本市の地域課題に取り組み関係人口になってもらえるよう、新たに関係人口育成講座を開催します。

■地域間交流による交流人口の拡大
包括的連携協定を締結している学校法人武蔵野大学との連携をさらに深め、令和6年度に国内で初めて設置される「ウエルビーイング学部」の研究活動を積極的に誘致するほか、大正大学など多様な大学とも連携を図りながら、市内全域を大学キャンパスに見立てた「鹿角キャンパス構想」を推進します。

■移住定住の促進
首都圏での移住フェアのほか、ガイドブックのリニューアルやSNSなどの活用を強化しながら、効果的な情報発信を展開します。また、市内事業所と連携し、市内に一定期間滞在して仕事などを体験できる滞在型のプログラムを新たに実施することで、移住者の増加につなげます。

■ブランド農畜産品などの生産拡大
稲作中心から収益性の高い野菜や花きへの転換を推進するほか、米価の安定に向け、主食用米から飼料用米などの新規需要米への転換を進めます。また、「かづの牛」については、令和4年度に枝肉出荷頭数が初めて100頭を超えたことから、次の目標である枝肉出荷頭数120頭台の達成に向け、引き続き頭数の維持・拡大を支援するほか、かづの牛のGI登録に向け、関係機関や畜産農家と連携しながら進めていきます。

■稼げる観光振興の推進
市全体を観光資源として生かした滞在型観光の充実を図るため、八郎太郎三湖伝説に係る広域連携の取り組みとして、関係自治体や団体と合同で祭りイベントを開催します。移動の利便性向上を図るため、十和田八幡平予約型観光路線バス「八郎太郎号」の運行に加え、少人数の利用が可能で、利用時間も柔軟に対応できる移動手段として、新たに自家用有償旅客運送による車両運行を開始します。

国際的観光地としての受け入れ態勢づくりのため、地域DMOに新たに小坂町を加え、地域連携DMO

として、鹿角エリア一体のプロデュース力を高め、持続可能で満足度の高い観光力づくりを進めます。

■再エネ導入
県内で唯一、国の重点加速化事業の交付金を活用し、太陽光などの再エネ電源の開発のほか、企業や家庭への再エネ設備や熱利用機器の導入を支援します。また、市民や事業者が行うCO2の削減効果が高い省エネ機器への更新や、省エネ性能の高い家電購入の支援により、環境と生活の質の向上とグリーン経済の活性化を図ります。

■EV導入の推進
EV（電気自動車）普及のためのマスタープランを策定し、EVをより身近に感じてもらうための講演会や試乗会などを引き続き開催します。

■企業誘致の推進
企業誘致戦略に基づき、新たにサテライトオフィス視察ツアーなどを実施し、情報サービス業をメインターゲットとした企業誘致を推進します。

経営戦略2
「世界遺産のまち」をつくる

生涯学習の推進
生涯学習活動の効果的な推進に向け、社会教育や福祉関係団体、自治会などとの一層の連携を図ります。インターネットを活用した情報発信の強化や多様な学びの機会を提供するほか、十和田図書館の新築整備を安全かつ計画的に進め、図書館を拠点とした学びの充実につなげます。

地域を担う人材育成のため、地域の課題解決や活性化に向けた学習機会の提供や学習活動支援の充実を図り、自らが意欲的に学び行動する人材を育成します。

地域の歴史や伝統、文化、人材を生かした学習活動など、生涯にわたる学習機会の充実を図ります。また、地域活性化に意欲的な人材の育成と発掘に取り組み、次世代に継承する活動の支援を強化します。

■スポーツの推進
体力や年齢、目的に応じ、生涯を通じてスポーツに親しむことができよう、ターゲット層や気軽に親しむことのできる運動機会を創出し、健康づくりに対する市民意識の向上を図ります。

■ヘリテージ・ツーリズム
世界遺産、無形文化遺産や文化財を観光活用したヘリテージ・ツーリズムとしてプロモーション展開し、国内外からの観光誘客に取り組み「世界遺産のまち・かづの」としての認知度の向上を目指します。

また、令和5年度に「和食」のユネスコ無形文化遺産登録10周年を機に開催したシンポジウムをきっかけとして、郷土料理をテーマとしたイベントを開催し、地域の「食」の魅力を活かして観光コンテンツとして積極的に活用し、誘客につなげていきます。

経営戦略3
まちの経営力を高める

■未来技術の導入
行政事務におけるペーパーレス化や電子決裁の拡充など、自治体DXを進め、市民サービスの向上と業務の効率化を図ります。

■地域人材の育成、活動支援
地域づくり協議会などが主体となつて開催する地域づくりミーティングを継続するほか、地域自らが課題解決に向けて主体的に取り組み、地域の活性化が図られる活動を支援します。

十和田八幡平駅伝競走全国大会や国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会などの開催を通じて、地域活性化を図ります。

鹿角高校への支援策として、スキー部・陸上部に在籍し下宿などを活用する生徒に対する支援を行い、「スキーと駅伝のまち」を推進します。

スポーツ施設の利用促進を図るため、総合運動公園総合競技場がリニューアルオープンするほか、新たにスキー場庄雪車格納庫の改修とクロスカントリー用圧雪車を購入し、利用者が安全かつ快適に利用できる環境整備を行います。

■文化・芸術の振興
文化財の保存会や関係団体が行う後継者育成、継承活動を支援するほか、将来に向けた文化財の保存活用地域計画の策定を進めます。

歴史民俗資料館や先人顕彰館では、郷土の歴史や民俗資料の調査研究の成果に基づいた学習機会の提供に努めます。また、特別史跡大湯環状列石については、縄文遺跡群世界遺産協議会との連携を図るほか、特別史跡大湯環状列石第二次環境整備基本計画の策定と事業に着手します。



令和6年度 教育執行方針

令和6年第2回市議会定例会で阿部教育長が発表した「教育執行方針」から、教育行政における本市が目指す方向性と今年度の取り組みをお伝えします。

基本戦略5
未来に羽ばたく人材を育てる

■学校教育の充実
主体的・対話的で深い学びを推進するため、教職員研修の充実を図るほか、学級集団の状況調査を実施し、各種学力検査の結果と関連させた分析を行い、学級集団の多面的な把握と、児童生徒の学力向上に役立てます。

ふるさとへの理解を深めるため、各校ごとに地域の特色を生かした体験活動や地域との交流を図る教育活動を進めます。地元企業への職場体験のほか、複数の学校が連携し、各地域にある農作物の栽培や伝統芸能

の体験、観光ガイドなどによる児童生徒の相互交流を図ることで、市全体を「我がふるさと」と捉えることのできる児童生徒を増やし、鹿角の未来を支え、盛り上げる人材を育成します。

デジタル教科書やアプリケーションを活用した授業の継続のほか、学習端末末の家庭への持ち帰りによる学習支援などで、ICT教育をさらに充実させ、全ての児童生徒の個別最適化された学びの実現を図ります。

中学校部活動の地域移行については、まずは、休日移行に向けた実証を行うほか、地域移行コーディネーターを配置し、学校と競技団体などとの連携を図りながら、具体的な移